

マレーシア滞在記 (2020/2/14~28)

マレーシアの首都であるクアラルンプール（以下KL）滞在は今回で8回目。武漢での新型コロナウイルスが懸念される中でのKL訪問であった。渡航前に知人友人からの心配する声もあったが全くの杞憂に終わった。（マレーシアリング（R）レート=約27円）

1、MM2H最新事情

(1) 宿泊ホテルで知りあった夫妻のケース

このご夫妻は70代後半で3年前から毎年冬に2か月KL滞在している。過去2年はKL郊外のサウジャナ・リゾートのコンドミニウム（以下コンド）に滞在していたが、今年はサウジャナで1ヶ月過ごした後、後半の1か月は都心のサマセットホテルに滞在していた。

先週映画館に行き阿部寛主演映画「夕霧庭園」(The Garden of evening mists)を鑑賞したそうだ。そしてこの映画の舞台となったキャメロン・ハイランドにも近々訪問するとのことだった。この映画は1月からKLでも公開されていて我々も映画館で鑑賞した。

ストーリーはマレーシア独立間もない頃の1950年代、キャメロンハイランド（写真参照）を舞台に、天皇の庭師でもあった阿部寛演じる元軍人とマレー人女性の悲恋物語だ。精神描写が多いのであまり理解出来なかったが、芸術作品としてKLでは評価されていた。なおこの映画は戦時中の日本軍によるマレー人への残虐非道な映像が多々あるものだった。日本での公開予定はない。

ところでこの夫妻はMM2Hを取るかどうかが検討していた。マレーシアでは滞在期間3ヶ月まではビザ不要だが、MM2Hがないと銀行口座が開設不可なのでKLでの金融資産運用が不可だ。どうも日本国内での金融資産運用が物足りない印象だった。

（注；MM2Hとは主に高齢者の外国人向け10年間滞在ビザ制度である。MM2HはMy Malaysia Second Homeの略称だ。このビザではマレーシアでの労働は禁じられているが、事業経営やコンサルタントなどは認められている。さてこの制度発足から10数年経過して、これまでに131ヶ国から約44千人がビザを受けている。その内訳は、中国（14千人）、日本（5千人）で、次いでバングラデシュ、英国、韓国、シンガポール、台湾である（地元週刊誌より）。昨年の香港デモの影響で香港



人からの申請が急増しているとのことだ。

(2) 最近MM2H取った夫妻のケース

ご主人が60代半ばで奥さんは50代後半のご夫妻と昨年宿泊ホテルで知りあった。昨年7月MM2Hを取得し、日本の住民票を外してKLに転居してきた。しかし半年間に2回帰国しており日本とKLの二重生活を楽しんでいる。

これまで働き詰めだったので老後はゆっくり生きたいとの固い人生観で、クルーズ旅行と世界旅行が楽しみとのことだ。その為KLの日常生活は専らテレビ鑑賞と散歩だとのことだ。

コンドはKL西のモンテキアラの一等地に80平米の2LDKで2年間の賃貸契約を結んでいた。月家賃7万円程度で電気ガス公共料金全て入れて数千円。食費も月1万円程で賄えるそうだ。アパートには共同プール

2つと屋内テニスコートやジムもあった。KLでの生活は快適で老後人生を楽しんでいる典型的な事例かもしれない。



2、医療衛生事情

(1) コロナウイルス

コロナウイルス防疫対策でマレーシアは日本より1月下旬に中国人の入国制限を実施した。この水際対策は奏功しておりKL滞在中は安全で安心できる印象であった。ただ中国観光客は激減していた。しかしマスクを付けた市民は殆どなく市民生活は昨年夏と同じであった。懸念された春節に中国本土から帰った華人も入国時の再検査と医療対応でほぼ制御されていた。(2/28日現在22人の感染者の内20人が回復済み。しかし3月に入り感染者が急増している)

(2) デング熱

蚊による感染症で年間300人程死に至る大変恐ろしい病気だ。日本人滞在者にも罹患して被害にあわれた知人がいた。完治までに3か月掛かったそうだ。この為ゴルフ場では長ズボンとアームカバーを着用し、ブッシュに入ったボールは諦めるようにしている。

(3) 食あたり

食あたりは海外旅行では注意が必要だ。自分は2年前飛行機の機内食で当たったことがある。友人は昨年中国旅行中ウイスキーの水割りでやられた。そうした場合日本人通訳士(看護師)のいる診療所は安心だ。尚VISAやJCBのゴールドカード会員は海外旅行保険が適用されてほぼ全額補償される。

(4) 熱中症(足が攣る)

今回初めて夜中に足が攣った。友人によると熱中症の影響だそうだ。その日気温36度で5時間ゴルフをしたが、最後のホールではバテ気味で顔色も悪かったそうだ。その夜は食欲も余りなく早目に床に就いたが太ももが攣った。10数分で回復したので大事には至らなかったが無理は避けた方が良さそうだ。水は十分飲んだが塩分やカリウムの不足が原因らしい。

3、最新ゴルフ事情

(1) テンプラーパークCC

巨岩で有名な林間コースだ。尾崎将司プロが監修しており日本人に人気だ。何度かプレーしたが日本のコースよりフェアウェイの芝が荒いので飛距離が伸びない。夕方と夜にスコールが多い気候なので午前中は芝に水を含んでおり、更にラフに入ると出すのは大変難しい。総じて日本の平均的なコースより難度は高い。(写真右参照)



(2) サウジャナCC(パームコース)

PGAツアー試合にも利用されるコースでKL在住日本人には馴染みのコースだ。パームコースはコースの回りがジャングルのようにパームや原生林が生い茂る雄大なコースだ。ゴルフ好きな滞在者に大変人気がある。

この敷地の近くに日本人学校(小中学生向き)があり、現役駐在員家族が多数居住する大型コンドがある。長期滞在者用の短期賃貸コンドから中期の賃貸コンドも併設されているので人気も高い。但し市内から30kmほど西側に位置している。因みに今年のPGAツアーは中止された。1月開催予定のシンガポールとバンコクでも同様のPGAツアー試合がコロナ問題で中止となった。欧米選手の殆どが参加辞退した為との話だった。



(3) スルタン・アブドラアジズシャーCC

このコースはサウジャナCCより更に西側10kmに位置している(右写真参照)。このコー

スは地元名士の敷地に開発されたようでプレー代が大変安い。平日は4千円で土日でも5千円程度だ。但しグリーン芝生が剥げている箇所が散見された。長期滞在者の友人家族は毎週ここに通っている。日本の平均的なゴルフコースといえる。

(4) トロピカーナCC

このコースは市内から15km西側に位置し、総合レジャー施設のひとつとしてゴルフ場が併設されている。プール、テニス、ボーリング、エステ、サウナ、複数のレストランなど一日中家族連れで楽しめる。サウジヤナも同様に総合レジャー施設なのでKLの日本人駐在員家族はこの近辺に多数住んでいる。

コースの特徴としては、全般に距離が長く、パー4でパーオンはほぼ不可能だ。加えてグリーン回りは馬の背タイプで、グリーン自体もポテトチップスだ。日本の平均的なコースより10打以上は悪くなるだろう。尚マレーシアゴルフ場は全般に長くフェアウェイの芝がきついで転がらない。

4、ホテル事情

(1) Park Royal Serviced Suits

過去5年間の定宿だ。昨年夏3週間で約23万円(80平米、リビング・キッチン・朝食付き)だ。ブキビントンにあるパビリオンまで徒歩7分なので日常生活は非常に便利だ。しかし都心なので郊外に出るとき交通渋滞で時間がかかるのが懸念される。

朝食は中華、欧米、インド、マレー料理などのビュッフェだ。毎日数品料理は変わるが殆ど同じタイプの料理なので3週間滞在すると飽きてくる。キッコーマン醤油と永谷園のフリカケを持参して時々料理に変化をつけた。トイレには水のホースが併設されている。ウォッシュレットを手動で行うようなものだ。

ホテルで過ごす時間は相当長い。ホテルのTVチャンネルは約40で、日本のチャンネルはNHKだけだ。外国放送で欧米TV局以外では中東専門のアルジャジーラが見える。しかしホテルにはWiFi常設なのでPCでYoutube・ニュース・娯楽映画を鑑賞することが多くなった。

(2) Somerset Hotel (右写真参照)

今回利用したホテルだ。14日間で約10万円だった(70平米、リビング・キッチン付、朝食なし)。

KLCCから徒歩15分にある。ホテルから徒歩10分以内でスーパーと飲食店が入るモールが2つあり日常生活は大変便利だ。



Park Royal より家賃は 20%安い。医療機関 H S Cと同じビル内であることと、K L 高速道路に連なる環状線に近いので郊外に出るのは便利だ。屋上にはプールと共同娯楽室がある。

5、その他の気づき

(1) 公園の充実

K L 市内には緑が多く、K L 中心部から植物園、野鳥園、昆虫園がある。市民の憩いの場でもある（公園からK L C Cを見た写真参照）。平日は子供達の遠足エリアにもなっている。

(2) 都市交通網の発達

首都交通網（地下鉄）が 1 0 路線に延伸して益々便利になっている。さらに路線拡大工事も続いている。平日の朝夕の交通渋滞解消になるだろう。マレーシアの人口は公式には 3 3 百万人だが人口増加は着実に続いている。また周辺国からの出稼ぎ労働者が数百万いるのでスポットでの人口数は 4 0 百万人とのことだ。

(3) 魅力的な街作り

高層ビル建設ラッシュが続いている。建設中のビル（写真参照）は完成すればマレーシアで最高になる。昨年末に完成した金融センタービルは 1 1 6 階建てだった。

開発余地の多い地域はK L C Cから北東にある。公共交通網も整備されており、魅力的な街づくりが進行している。

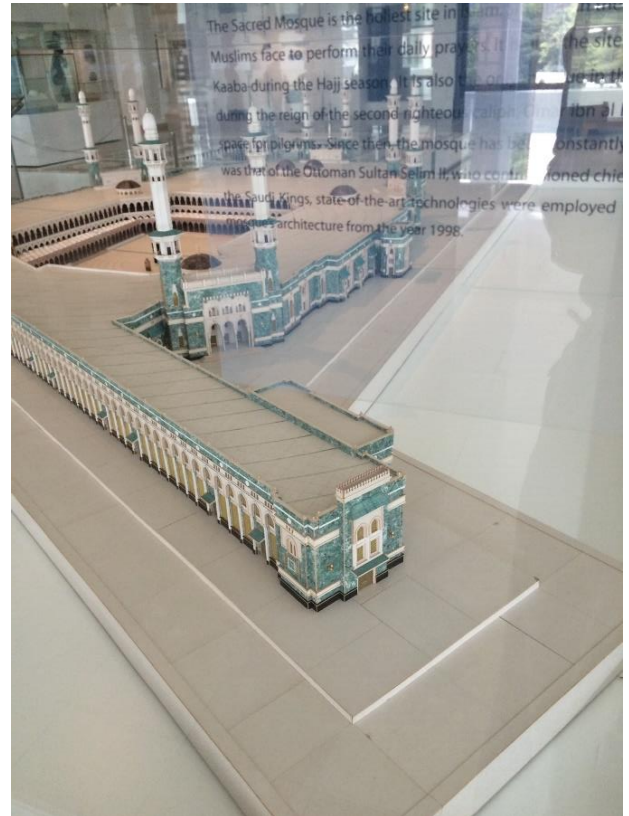
(4) イスラム教について

マレーシアはイスラム教を中心とする多宗教・多民族国家だ。数年前に官庁街をプトラジャヤ地区に移転したがそこにも豪華なモスクがある（写真参照）。





しかし宗教的戒律がそれほど厳しくなく、民族的慣習による日常生活への束縛も緩い。因みにマレー人女性はアラブ人のように顔を隠していない。独特のスカーフで顔周辺を覆っているだけだ。アルコール類の販売も問題



ない。

KLにはアルジャジーラというアラブ系TV局の唯一の海外支店があり、イスラム世界の動向を中心に報道がされている。またイスラム美術館（右写真参照）には世界の巨大モスクの模型が展示されイスラム芸術と文化を知る貴重な施設となっている。

なおモスクはマレーシア至る処にある。新型コロナウイルス感染者が急増したのはモスクでの集会が要因と報道されている。

(5) Grabの普及

Grabはウーバーの東南アジア版で、現在地と目的地をスマホで確定して料金を払う新型タクシーシステムだ。その普及率は20%とのことだ。今回空港からホテルまではタクシーを利用したがそれ以外の移動は全てGrabを利用した。時間効率を含めコスパが断然良い。利用方法は簡単で覚えると大変便利だ。

(6) 海外滞在のリスク

今回の新型コロナウイルスは中国から始まり、韓国・イラン・イタリアに伝染し、今や全世界に広がりを見せている。この為マレーシアも自宅待機生活、公園閉鎖、海外渡航制限など非常に厳しい対策が3月に施行された。マレーシアは日本の避暑避寒地として魅力的滞在地だが、こうしたカントリーリスクを忘れてはならない。

(2020/3/22記す)